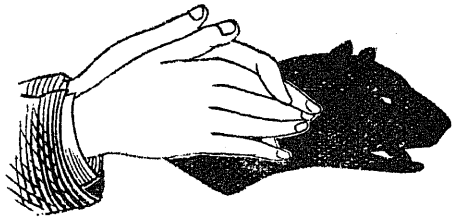
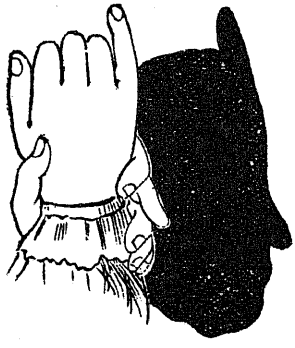
いまも　うえるのさ」



ねこ　と　ひと。

うえのが　ねこで

したのが　ひとです。



狼と狐後日ものがたり。

みなさん　狼わ　あんまり賢い獣でないことわ

この間のお話で　分りましたろー。で、もー一度狼がやりそこねたお話をして見ましょーか。

ある時のことでした狼と狐とが　また例の山の中で　であって　いろ〳〵　世間話しを　して居ったのです。其時　狐わ狼に「なんだって　世

のなかに人間ほど　えらいものわあるまい　吾々の仲間の者わ　だれだって　人間にわ　勝つことができぬ。だから僕わいつでも　計畧で　やってゆくのだ」と　話しました。

ところが　狼わ　「僕わまけない　もし人間に

であったら　一とびに　とびついて見せる　なーに人間などに　まけるもんか」と　威張りだした。すると　狐は」「こりや　面白い　僕も助けてやろーでわ　今から　僕と一所に　おいでなさい　人間を見せてあげましょーから。

と　ゆーので　二獣つれだって　人の通る道ばたえ　出てきて　隠れて　見ていました所が　そこえ出てきたのが　年のいった　跛のおぢーさんです。杖をついて跛ひきながら　山道を　ひよこ〳〵とあるいてきました。

そこで　狼わ「狐君　人間てのわ　これかい」

「いーや　もとわ　これも人間だったのさ」と　狐が　返事した。

つぎに　きたのが　學校がえりの　生徒です。皆さんと　同じぐらいの　年ごろで　かばんを　肩にかけながら　沓をはいて　すたくと　やってきました。

で　狼わ「どーだ　これが　人間だろー」と　尋ねました所が　狐わ「どーして　やっと　今からなろーと　ゆー所なのさ」

所え　こんど出てきたのわ　獵師です。　草鞋脚胖で身を固め　腰にわ　斧を横たえ　二連發の獵銃を肩にして　筋骨逞しき　大の男。　獲物もがなと　あちらこちらを　睨みながら　山道を　上ってきた。

そこで　狐わ　狼に　そーっと　さゝやいた。「そら　狼君　これだ〳〵　これが　ほんとーの　人間なのだから　すぐとびつきなさい。　僕わ　ちょつと自分の穴のなかえ　かくれていましょーから」　とゆーので　狐わ　さっそく　穴のなかえ　かくれました。

狼わ　人間だと　きいて　おそろしい目を　むきだし　牙をならして　獵人に　飛びかゝった。

獵人わ　「すわこそ　獲者よ」と　いきなり　二連發銃　とりなをし　狼の顔を　ねらって　ズドンと一ばつ。キャッと　いって　倒れた所を　あ

べこべに　とびかゝつて　腰の　手斧を　とるより
はやく狼の頭を　つゞけうちに　なぐりつけました
から　たまりません。狼わ　うんとも　いわずに
死にました。

このありさまを　さっきから　狐は　穴の中え
かくれて　見ていまして「あ　とうゝやられた
僕の　ゆーことを　きかないで　一人で自慢するも
んだから　あんなめに　あったのだ」　（おわり）